

就労準備支援事業における令和6年度の実績報告及び令和7年度の進捗状況

項目	令和6年度の実績	令和7年度の実績	令和7年度の取組計画	令和7年度の進捗（7月末時点）
地域での居場所・役割	- 若者相談センターアサガオ親の会と継続して連携する。 - 訪問支援（アウトリーチ）等による早期から継続的な個別支援を実施する。 - つどい場くろまつで就労系のセミナーを取り入れながら、プログラムの充実を図る。 - ひだまりの会へ参加し、ご家族との関わりをもち、当事者へのアプローチを検討していく	【実績】 - 若者相談センターアサガオ親の会に2回参加。 1件の訪問支援（アウトリーチ）を自立相談支援事業担当者と連携して実施している。 - ひだまりの会に参加しているご家族を通じてひきこもり当事者の方が作ったTシャツを販売することで間接的に関わりを持つ機会ができた。 - つどい場くろまつに延べ159人が参加された。 【評価】 - アサガオ親の会に参加することで、不登校の子を持つご家族や、成人してひきこもり状態の方のご家族と関わる機会をもつことができた。 - 定期的に訪問支援（アウトリーチ）することで、ご家族や当事者の近況を知る機会になった。 - ひきこもり当事者の方とご家族を通じて間接的にもアプローチを試みることが出来た。 【課題】 - 継続してご家族を通じて、ひきこもり当事者の方と関わっていく。	- 若者相談センターアサガオ親の会と継続して連携する。 - 訪問支援（アウトリーチ）等による早期から継続的な個別支援を実施する。 - 定期的に通える場つどい場「くろまつ」を実施する。 - 若年層向けのくろまつを企画、実施する。 - ひだまりの会へ参加し、ご家族との関わりをもち、当事者へのアプローチを検討していく。	【実績】 - 若者相談センターアサガオ親の会に2回参加。 2件の訪問支援（アウトリーチ）を自立相談支援事業担当者と連携して実施している。 - つどい場くろまつを通じて継続して通われている参加者と新しく参加した方との交流を図る機会になっている。 - 若年層向けのくろまつを4回実施。延べ9名参加。 - ひだまりの会に4回参加。 【評価】 - ひきこもりに悩むご家族に事業や相談窓口について案内する機会になった。 - 若年層向けのくろまつを実施することで、若年層のニーズや考えを知る機会になった。 - ひだまりの会に参加することで、当事者の方の近況をご家族を通じて知る機会になった。 - 自宅から出にくい方とオンラインを通してお花見に参加して頂くなど工夫して参加者同士が関わる事ができた。 【課題】 - 継続してご家族を通じて、ひきこもり当事者の方と関わっていく。
就労支援	- ハローワーク担当者と就労支援について連携する。 - 他市の情報収集や情報共有を行い、連携を図る。 - 企業内の見学やちょっとしたお手伝いを通じて地域の企業とつながっていく。（草引き・植栽のお手伝い等） - 畑作業の実施。 - 対象者のニーズに応じて必要とするプログラムの実施。 - コープこうべめーむひろばを保健福祉センターで実施。 - 就労に向けたPC操作等のプログラムの充実を図る。 - 対象者のニーズに合わせてボランティア体験や就労体験先を開拓し実施する。	【実績】 - 保健福祉センターでの「めーむひろば」の就労体験を経て3人が就労につながった。 - ハローワークに同行訪問し、担当者や連携しながら求人の検索や履歴書作成、面接練習を実施。1名就労につながった。 - 他市の事業担当者や情報収集・共有の場を設け、連携を図った。 【評価】 - 保健福祉センターでの「めーむひろば」に参加することで次のステップに進むことが出来たり、就労につながる事ができた。定期的に就労体験ができる場があることで、参加者の方の外に出るきっかけになっている面がある。 【課題】 - 今後も就労体験ができる場の確保や地域の企業とのつながりを継続していく。	- ハローワーク担当者と就労支援について連携する。 - 他市の情報収集や情報共有を行い、連携を図る。 - 企業内の見学やちょっとしたお手伝いを通じて地域の企業とつながっていく。（草引き・植栽のお手伝い等） - 畑作業を実施。 - 対象者のニーズに応じて必要とするプログラムの実施。 - コープこうべめーむひろばを保健福祉センターで実施。 - 就労に向けたPC操作等のプログラムの充実を図る。 - 対象者のニーズに合わせてボランティア体験や就労体験先を開拓し実施する。	【実績】 - ハローワーク担当者と就労支援について支援調整会議等の場で連携できた。 - 他市の就労準備支援事業担当者や情報共有を4月に行った。 - 保健福祉センターでのめーむひろば就労体験を経て1名が就職し、1名が店舗実習に参加。 - 笠谷工務店での植栽作業（有償）、事務体験を通じて参加者が外に出るきっかけになっている。 - 畑作業（2箇所）に延べ41人参加された。 - コープこうべめーむひろば（保健福祉センター）に31人参加された。 - 就労に向けたPC操作等のプログラムに延べ20人が参加された。 - 芦屋市内の団体や企業が集うこえる場に参加し、事業の説明や名刺交換を実施。 【評価】 - 地域の企業とのつながりや関わりがあることで、参加者の中で「やってみようかな」という気持ちになり、行動に起こす機会になっている。 - 定期的に畑作業に参加することで「外に出るリズムができた。」という感想を頂いている。 - コープこうべめーむひろば（福祉センター）に参加することで、就労に向けたアセスメントの場になったり、役割をもって参加できる社会参加の場になっている。 - Excel、ワード、パワーポイントなど就労に向けた基礎的なPCスキルをそれぞれのベースに合わせて学ぶ場になっている。 【課題】 - 継続して様々なニーズに対応するため就労体験先を開拓したり、既存の協力事業所と良好な関係性を築いていく。
相談支援体制の機能強化	- 定例支援調整会議、事例検討会への参加。 - 就労支援センター全体会議への参加。 - 社会福祉協議会（地域福祉係等）と連携し、地域のボランティアグループや地域住民の方とのつながりをもつ。 - 若者相談センターアサガオとの連携 - ひょうご発達障害者支援センター「クローバー芦屋ランチ」と連携し、情報共有を図る。 - 外部研修への参加 - 事例検討会への参加 - 自立相談支援事業と情報の共有を行い、該当者への支援や本事業の利用促進に努める。 - 阪神南障がい者就業・生活支援センター、障がい者相談支援事業と連携を図る。	【実績】 - 定例支援調整会議、事例検討会への参加。 - 自立相談支援事業や関係機関との情報共有。 【評価】 - 継続して関係機関に就労準備支援事業のつどい場「くろまつ」、寄ってカフェ」「農作業」「就労体験」等のプログラム内容の認知が少しずつ広まり、対象者に情報提供する機会が増加した。 【課題】 - 情報提供する機会は増加したが、継続して本事業を活用してもらえるよう関係機関と連携していく。	- 定例支援調整会議、事例検討会への参加。 - 就労支援センター全体会議への参加。 3ヶ月に1回（または随時）開催の多機関協働支援会議に参加する。 - 多機関協働推進委員会に参加する。 - 外部研修への参加 - 事例検討会への参加 - 自立相談支援事業と情報の共有を行い、該当者への支援や本事業の利用促進に努める。 - 阪神南障がい者就業・生活支援センター、障がい者相談支援事業と連携を図る。	【実績】 - 多機関協働支援会議に積極的に参加し、本事業について共有したり、多機関での取り組みについて知る機会になっている。 【評価】 - 自立相談支援事業と情報の共有を行うことで該当者への支援や利用の促進に努めることができた。 - 若年層の相談が多い傾向にあったため、年代に応じたプログラムの検討や関わりについてケースを通じて自立相談事業担当者や支援の進め方について共有することが出来た。 【課題】 - 多様なニーズに対応するために今後も継続して多機関と連携していく。
周知・啓発	- ひきこもり状態の方やそのご家族向けの相談会を実施（年1回） - 年に2回程度チームYoake（困窮）の取組内容を機関紙として発行を検討。 - 近隣の高校・大学と情報共有や学校訪問を通じて事業を周知し、先生や学生の方と関わりや接点をもつ機会をつくる。	【実績】 7/28に「ひきこもり・不登校からの一歩〜家族とともに〜」を実施し、36名参加された。 - 令和6年7月1日にチームYoakeの機関紙Vol.1、令和7年1月1日にVol.2を発行。 - 近隣の高校に継続して訪問することで就労面で課題を抱えている在校生とつながる機会となった。 【評価】 - 相談会を実施することで、不登校やひきこもりに悩むご家族や当事者に相談窓口先を知ってもらう機会につながった。 - 定期的に近隣の学校に訪問することで、めーむひろば 【課題】 - 今後も相談窓口や支援内容について周知していく。	- ひきこもり状態の方やそのご家族向けに講座や勉強会を実施。 - 年に2回程度チームYoake（困窮）の取り組み内容を機関誌として発行を検討。 - 近隣の高校・大学と情報共有や学校訪問を通じて事業を周知し、先生や学生の方と関わりや接点をもつ機会をつくる。	【実績】 「ひきこもり・不登校」家族のためのセミナー（主催 芦屋市社会福祉協議会 全4回）を共催で実施予定。 - 令和7年7月1日にYoake Vol3を発行。花壇の植え替えの様子やお花見の様子を掲載している。 - 定期的に近隣の高校に訪問することで個別ケースで1件生徒と社会参加支援で関わる事が出来ている。 【評価】 - チームYoakeで定期的に打ち合わせを実施し、事業周知のための機関誌を発行することが出来た。 - 機関誌Yoakeを発行することで実際の取り組みの様子を写真を交えて知ってもらえるようになった。 - 近隣の高校で福祉的な支援が必要な学生について学校と連携しながら関わる事ができた。 【課題】 - 機関誌を活用しながら継続して事業を周知していく。